



HOPPY team TSUCHIYA  
レース結果報告書  
2024SUPER GT Rd.7 オートポリス

■日時	2024年10月19-20日	■車両名	HOPPY Schatz GR Supra GT
■場所	オートポリス	■ゼッケン	25
■監督	土屋 武士	■ドライバー	菅波冬悟／松井孝允
■チーム	HOPPY team TSUCHIYA	■リザルト	予選 8位／決勝 11位

## 天候不良に見舞われたオートポリス ワンデーレースで奮闘も、あと一步で入賞を逃す

10月19、20日、大分・オートポリスにおいてSUPER GT第7戦「AUTOPOLIS GT 3Hours RACE」が開催され、No.25 HOPPY Schatz GR Supraはシーズンベストとなる8番手からスタート。一時は6番手までポジションアップを果たしたが、ペースアップが芳しくなく、またレースそのものが4度にわたるセーフティカー導入という落ち着きのない展開に。思うようにペースをつかめないまま終盤を迎えることとなり、後続との攻防戦の末に11位チェッカーとなった。

ご機嫌いかがですか？ ホピ子です。ようやく秋めいてきましたが、日によって天候が大きく変わることも多く、体調を崩しかねない感じです。季節の変わり目につき、くれぐれもご自愛を。と言っているなかで迎えた第7戦。舞台は大分・オートポリス。阿蘇山間部にあり、サーキットへの道中は風光明媚なワインディングロードもあり、搬入日にあたる金曜日は、ちょうどすすきの穂が秋晴れのなか、キラキラと輝いていました。

第5戦 鈴鹿が台風で延期され、次の第6戦 SUGOは雨模様。今度こそ、ドライコンディションでのレースを期待していたホピ子でしたが、またしても悪天候に翻弄されるレースウィークが待ち受けるとは……（涙）。いったいどうなっているのでしょうか。

SUGOに続き、オートポリスでのレースもチームとしては2年ぶり。標高が高く、且つダイナミックなコースレイアウトで攻め甲斐たっぷり。正直タイヤには厳しくピックアップも多いのですが、しっかり戦うぞ！ っていう気持ちを掻き立てる場所でもあるのです。当然ながらオートポリスに見合ったクルマがどういうものなのか、チームとしてしっかりと準備してサーキット入りしたので、あとは菅波冬悟さんと松井孝允さん、そしてチームにいつも帯同してくれている佐藤公哉さんからのフィードバックをもとにレース用のクルマへと仕上げていこうと考えていました。

そうそう、シーズンが始まって以来、ずーっと悩み続けているホピ子とタイヤとの関係性だけど、前回のSUGOで投入した新しい構造のタイヤがいい感じで、これをもとにして今回のオートポリスの準備をしてきたんです。なので、この手応えが数値としてしっかりと実証されたらいいな、と思っていたホピ子でした。

ああ、それなのにまたしても土曜日のサーキットは雨模様。しかも、山間部という場所的な問題もあるのか、朝のサーキットは濃霧ですっぽりと覆われてしまい、十分な視界確保ができません。サポートレースのスタート

も遅れるなか、引き続き状況回復を待っていたのに、どんどん予定開始時間が遅れるばかり。本来、午前9時20分から公式練習が始まる予定だったのに、「コース上の視界状態が改善しない」という理由から、小刻みにコースオープンが見合わせになりました。結果、午前10時30分には、「午前中の走行はすべてキャンセル」と発表があり、練習なしにいきなり予選へ、となったものだから大変！でも、本当のところ、これだけでは済まなかったのです。

このあとピットウォークは実施され、視界も戻ってきました。ファンの皆さんとの交流もできたのですが……。ピットウォークがほどなく終わろうとするなか、ポツリと雨が落ちてきて。それからというもの、瞬く間に本降りの雨へ急変。叩きつけるような雨が続き、コース上には川が何本もできてしまいました。降り続く雨に、コースの一部では土砂も流れるほど。そして、ついに雷も！もうこうなったら走行どころじゃありません。サーキットに居るみなさんの安全確保が“最優先”です。場内アナウンスでは、建物内への避難の呼びかけも行なわれていました。

近年稀に見る悪天候となってしまった土曜日のオートポリス。午後2時50分から予定されていた予選は当然のことながらキャンセルとなり、走行セッション後のキッズウォークなどのイベントもすべて中止となりました。結果、土曜日はサーキットに来ただけで何もすることなく、スタッフの皆さんは“下山”することに。まあ、サーキットにいる間は、あれやこれやと話し合いはたくさんしましたけどね。ホピ子としては、まったくもって何もすることのない一日を過ごしたというわけです。

翌日に走行スケジュールが持ち越しとなり、日曜は早朝から慌ただしく時間が過ぎていきました。午前7時30分にはウェット宣言が出され、30分後によく GT300 クラスの予選が始まりました。変則的なスケジュールになったことで、予選は30分間の計時方式へと変更。基本的にどのチームもひとりのドライバーがアタックを担当することになり、孝允くんがホピ子をドライブしました。武士監督は、金曜日にニコニコ顔で「ようやく合うタイヤが…」と手応えを得ていい戦いができるかと前を向いてたけど、文字通り雨が“水を差して”しただけに、どこまでホピ子が踏ん張れるのか心配してたかもしれません。開始直後の路面コンディションはもちろんスリックで出走は叶わない状態。それでも何台かはいきなりスリックでコースに向かう作戦を採ってたようです。まあ、安全策を採っていたホピ子には無理でしたが。

でも、アタックにはスリックタイヤがマスト！ただ、そのタイミングが難しく、どのくらいの路面温度でちゃんとタイヤのゴムが発動するのか、その見極めを孝允くんがしっかりとやってくれたおかげでアタックモードに入ることができたんです。ただ、残り時間7分くらいでコースアウト車両が出て赤旗中断となったときには、冷や汗が出ちゃいました。まだアタックモードではなかったし、このまま終わっちゃったらヤバいと。幸い、残り時間4分での再開が可能となり、孝允くんはピットロード出口からほぼ一番遠い場所にあったピットからホピ子をコースへと連れ出してくれました。そして、チェッカーフラッグが振られるなか、1分48秒980のタイムをマーク！8番手の結果を手にしたのです。もちろん、シーズンベストの予選結果となりました。Q1、Q2に分けて行なういつもの予選方式であれば、Q2はアッパークラスでアタックする結果ですよ！しっかりホピ子そしてタイヤのポテンシャルを引き出す走りをしてくれたことに、感謝しています！

その後、決勝に向けてのウォームアップ走行が午前11時30分から始まりました。いつもなら20分間だけど今回は倍の40分。それもそうですよね、アタック担当の孝允くんは朝からいろんなコンディションでホピ子をドライブできたけど、冬悟くんはそのチャンスがまだ一度もなかったわけで、そのままいきなりレース本番になったら大変です。しかも冬悟くんは前回のSUGOも走ってないんですから！そんなわけで、この貴重なセッショ

ンを活用してフィーリングをつかもうと、冬悟くんも周回を重ねつつ、近づく決勝への準備を粛々と進めたのでした。

さあ、いよいよ待ちに待った決勝が始まります。3時間レースなので、いろんな点でタフな展開になるだろうと覚悟したホピ子ですが、気温は17度、路面温度は24度のコンディションながら、冷たい風が強くて体感的にさらに寒さを感じました。SUGOもそうだったけど、サーキットにお見えになっていたファンの皆さんにとっても、タフなコンディションでしたよね。にも関わらず、熱い声援をたっくさん送ってくれて本当にうれしかったです。いつもありがたい気持ちでいっぱいホピ子です！

ウォームアップでしっかりとドライブした冬悟くんがその流れでスタートも担当。どうしてもコンディションが不安定なので、早速接触のアクシデントがあったり、リスクの高い展開となりましたが、とにかくホピ子は少しでも長くポジションをキープ……いや、もちろんポジション“アップ”を意識した走りを目指しました。早々から変則的ピットインを敢行するチームもいたようだけど、ホピ子はどちらかといえばスタンダードな戦略でアプローチしよう。とはいえ、レースなので展開は“水もの”。ほぼほぼレーススタートから1時間超となった30周終わりでピットインしました。

ドライバーも孝允くんへとスイッチ。ライバルたちもその前後の周でどんどんピット作業を済ませたようです。そんななか、ホピ子は思うようにペースアップできず、というか、他のタイヤメーカーを装着しているライバルに比べてペースが速くなくて、16～20番手を走っている状況でした。

そんな中、レースは荒れた展開で、FCY（フルコーススイエロー）やSC（セーフティカー）が頻繁に入っていたんです。これまでにレースは3度もSCランをしており、波乱たっぷりの荒れ模様になってました。やっぱり天候不順の影響を受けんるんですかね!?

その荒れた展開の中で、チームでは武士監督と木野エンジニアがなにやら色々として戦を考えていたようで、ほとんどのチームが2回目のピットを済ませた後の75周終わりに、このレース最後のピットを実施しました。

ここでは孝允くんが継続してドライブ。いわゆる“2ステイント担当”っていうやつですね。そしてここではタイヤを交換せずにコースに戻りました。これは、孝允君と無線でやり取りをしながら、他のヨコハマタイヤ勢がタイヤ交換をしてもタイムが上がらないことを見越したうえでの無交換だったそうです。それによって入賞圏内の9位で戻ることができました！でも後ろからは2～3秒も速いクルマたちがやってくるので厳しいのはわかっていたけど、それでも最善な作戦をチョイスできたことは間違いないですよ。

レース中は気温が13～15度、路面温度は19～23度で推移。日差しがほとんどなかったのも、スリックタイヤとはいえ、シビアなコンディションだったと言ってもいいのかもしれない。一方、2回目のピット作業を終えて9位でコース復帰を果たしたホピ子ですが、チームも孝允くんも、できればこのままチェッカーを受けて今シーズン初のポイント獲得を！と強く願っていたのですが……。

3時間レース終了まで残り16分となり、第2ヘアピンで大きなクラッシュが発生。FCYからSC導入へと切り替わってしまいます。この時点でホピ子は11番手を走行。少し前でポジションを落としてしまったんです。SCからリスタートすれば、再び10番手を狙えたかもしれない。だけど、レースはSC先導のまま3時間を迎えてしまい、レースが終了。もうちょっとで手が届く10位がスルリと手からこぼれ落ちたことがとても悔しいホピ

子でした。もちろん、ドライバーもチームのみんなも残念な気持ちでいっぱいでした。それでも、武士監督によれば、ヨコハマタイヤ装着のFR車としては最上位の結果だったとのこと。ホピ子としては、奮闘できた証でもあると胸を張ってもいいのかな!?

とはいえ、考えてみたらライバルたちと同じ土俵でしっかりと戦えた一戦だったことは違いないし、そのなかでどうすればさらに進化できるかを考えられる展開でもあったと思います。タイヤのマッチングが的確かどうかによってこれほど悩みが大きかったのかと、ホピ子自身もビックリだったけど、レースができるタイヤが出来上がったことで、残り2戦の戦い方としては、ググッと幅を広げてアプローチできるかもしれません。楽しみがどんどん増えていけばいいな、と思うホピ子です。

オートポリスからもてぎに向けて、わずか2週間という短いインターバルしかないので、やれることは極めて限られるでしょう。ですが、ここで慌てることなく、これまで同様に“その先”にフォーカスして“速くて強い”ホピ子へと成長できるようがんばっていきます。引き続き応援よろしくお願いします！秋深まるもてぎでまたお目にかかりましょう！

#### ■レースを終えて

##### 【菅波 冬悟】

SUPER GT オートポリスラウンドも応援ありがとうございました！

今大会、雨と霧により土曜日のスケジュールは全中止とイレギュラーな大会となりましたが、1day開催となった日曜日には予選8位、決勝11位と今季最高順位でレースを終えることが出来ました。

決勝では11位ということでポイントゲットまであと1ポジション足りず悔しい結果となりましたが、今年はポイント争いさえ出来ない順位でのレースが続いていたので一歩前進出来た気持ちも大きいです。

残り2レースで何としてもポイントを獲得したいと思っています。

引き続き頑張りますので応援よろしくお願いします。

##### 【松井 孝允】

今回のオートポリス大会は菅波選手が体調不良から復帰し、楽しいレースウィークでした。

土曜のフリー走行は天候不良により中止となり、日曜日のぶっつけ予選となり非常に難しい走行となりましたが、前回からタイヤの印象が良かった部分が上手くいき、予選では8番グリッドと今シーズンベストグリッドとなりホッとしました。

決勝に向けてウォームアップから菅波選手がセットアップを行い、準備は整った状態でレースに挑みました。

結果は11位とポイントに届かず悔しいレースでしたが、明るい兆しが見えるレースでした。残り2戦に向けてポジティブなので上位を目指してチーム一丸となって戦います。

現地の方々、遠方からもたくさんの応援ありがとうございました！

##### 【佐藤 公哉】

皆様今大会もたくさんの応援ありがとうございました！

寒い中ご来場された皆様もありがとうございました！

今大会私はドライブすることはありませんでしたが、リザーブとしてレースを間近で見えて進歩を感じて非常にポジティブな週末だったと思います。

次戦も引き続き応援宜しくお願いいたします！

**【土屋 武士監督】**

今回、ようやく普通に戦えたと言えるレースができました！ここまで長い間、本当にお待たせしてしまい申し訳ありませんでした m(\_ \_)m たくさんの皆さんの支援によってサーキットに戻ってこれたのに、全然レースが戦えず、ただ走っているだけの状況だったことは、我々もですが、皆さんも辛かったことと思います。本当に遅くなってしまいましたが、ここからが新生ホピ子の開幕です！

でも、それでもまだまだトップへのポテンシャルには遠く、やるべきことは山積みです。今回の順位も戦略によって得たもので、まだ足りないことばかり。これまで同様、ひとつひとつ丁寧に、根拠を積み上げて成長していきたいと思います。

今シーズンは残り2戦となりますが、特に最後の鈴鹿ラウンドでしっかりと結果を出せるように準備をしていきたいと思っています。今後とも応援をよろしくお願いいたします！

**【問い合わせ先】**

つちやエンジニアリング合同会社

〒252-0822 神奈川県藤沢市葛原2507

TEL : 0466-49-5010 FAX : 0466-49-5011

担当： 土屋・佐々木